



豊島子どもWAKUWAKUネットワーク の取り組み



NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
事務局長 天野敬子(精神保健福祉士)





豊島子どもWAKUWAKUネットワーク



地域を変える/子どもが変わる/未来を変える

子どもの貧困をテーマに地域の子どもの地域で見守り育てることをコンセプトとして活動する地域住民主体のNPOである。

- ・遊びサポート・・・池袋本町プレーパーク
- ・学びサポート・・・無料学習支援 3か所
- ・暮らしサポート・・・「要町あさやけ子ども食堂」
「椎名町こども食堂」「池袋こども食堂」
「夜の児童館」





池袋本町プレーパーク



1943年デンマークで始まり、日本では世田谷の羽根木プレーパーク(1979年)から始まりました。

「火、水、土、木」を使って、子どもが自由に自発的に遊びを創出できる場です。

木登り、泥んこ遊び、たき火、水遊び、木工などなど・・・
プレーリーダーが常駐し、危険がないか見守るとともに、子ども
もの「おもしろそう」「やってみたい」を引き出す役目をする。





無料学習支援



大学生と地域住民で、宿題を中心に子どもの勉強のお手伝いをする
勉強を教えるだけでなく、子どもとの信頼関係をつくることを大事にしている
夏には飯能河原でバーベキュー
ハロウィーン、クリスマスにミニイベントを実施





としま子ども学習支援ネットワーク (とこネット)



豊島区内で貧困の連鎖を断つことを目的とした
無料学習支援団体のネットワーク

2015年6月に設立

豊島区民社会福祉協議会主宰

毎月1回、区役所にて定例会を開催

区職員や子ども・若者支援員、CSWも出席

現在、豊島区内10か所で開催





要町あさやけ子ども食堂



第一第三水曜日、17:30～19:00

一食300円、子どもだけでも入れる食堂

店主の山田さん(WAKUWAKU理事)が自宅の一軒家を開放して運営している

子ども、親子づれ、ボランティア、見学者が集い交流拠点となっている

オープンな場である。1回に平均40名が集まる。





「こども食堂」の取り組み



映像資料

NHK『アサイチ』

気づいていますか？子どもの貧困

2014年4月28日(木)放送





「夜の児童館」の活動



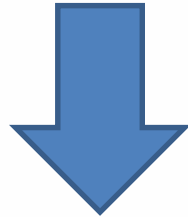
日時: 毎火曜日 16:00 ~ 20:00

会場: 金剛院・蓮華堂(椎名町駅前)

内容: 孤食の子どもたちを対象としている。登録制。

宿題をしたり、遊んだり、手づくりの夕食を一緒に食べる。

同じ子どもたちを同じスタッフが迎え、家庭的な時間を提供する。



一軒家で展開できないか？

一人暮らしの高齢者の家に、近所の孤食の子ども、2、3人が集い、近所のオバチャンが料理をつくり、大学生が1、2名やってくる。8名以内のユニットで地域に点在させる。





地域ネットワークづくりのシンポジウム こども食堂サミット2016



日時:2016年1月11日(祝・月)

会場:としまセンタースクエア(豊島区新庁舎1階)

共催:豊島区、豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、こども食堂ネットワーク

内容:13:00~14:00 パネル展示(関東圏20団体のこども食堂がパネル展示)

14:00~15:00 基調講演 子どもの里館長 荘保共子氏

「地域とともに子どもに寄りそう35年の実践から。」

- 食と居場所と愛情と -

15:00~16:00 パネルディスカッション

5団体が実践を発表

16:00~17:00 交流会

参加者数:354名



地域ネットワークの必要性



さまざまなカタチの居場所をつくり、関係を紡ぐ

孤立させない

適切な支援につなぐ



OSEKKAERU





「貧困」の連鎖から「おせっかい」の連鎖へ

